

○現状分析 (学力調査等の結果を踏まえた内容別・観点別の分析表)

2年		平均正答率		分析
		本校	都	
理科		57.1	53.3	本校の平均生徒率は、都の平均正答率よりも3.8ポイント高い。思考・表現や技能、知識・理解の観点において、本校の平均正答率は都の平均正答率よりも、3.1~6.9ポイント高かった。最も都の平均正答率を大きく上回ったのは、知識・理解の観点である。しかし、関心・意欲の観点において、本校の平均正答率は都の正答率よりも、2.4ポイント低い。
観点別正答率	関心・意欲	85.2	87.6	
	思考・表現	51.3	46.7	
	技能	65	61.9	
		知識・理解	54.7	47.8

3年		平均正答率			分析
		本校	都	全国	
理科		63.0	65.0	66.1	本校の平均正答率は、都の平均正答率よりも2.0ポイント、全国の平均正答率よりも3.1ポイント低い。各観点別においても、本校の平均正答率は都や全国の平均正答率よりも1.1~7.0ポイント低い。最も差異が大きかった観点は技能で、最も差異が小さかった観点は思考・表現である。
観点別正答率	関心・意欲	70.8	75.1	74.0	
	思考・表現	63.8	65.4	64.9	
	技能	60.0	64.5	67.0	
		知識・理解	61.0	65.0	67.9

○指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、観察の考察を生徒一人一人が主体的に行うことのできる授業展開が必要である。 ・実験、観察を通して得られたデータや気付いたことを共有し、それらを基に考えを深めたり、活用して身近な現象と関連付けたりする力を育む指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、観察において、グラフや表などを活用し、生徒が結果を整理し考察をしやすくする。 ・実験、観察、考察を4人グループで行わせ、役割分担をさせたり、自分なりの考察内容を発表し合ったりさせることで、生徒同士の対話的活動を多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、観察において気付いたことをノートやプリントに書かせた上で、他の理科分野や高校の内容、身近な現象との関わりについて個々にコメントを返し、学習内容の定着とより深い学びを促す。 ・発展的な指導計画として、実験方法を生徒自身に考えさせることで、論理的な思考力を育む。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の定着は十分に行えていると判断できる。 ・関心・意欲における平均正答率の差から科学的な事象と日常生活を関連付けるなど、生徒の興味・関心を育む指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時に、学習する内容がどのように生活に利用されているか、生徒自身が考える時間を設け、実例を教員が紹介する。また、学習後に生活と関連付けて学習内容を振り返ることで学習の定着と生徒の興味・関心を育む。 ・演習実験を増やし、科学的な体験を多く経験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や計算に関連した科学的な思考力を高めるために、グラフの読み取りや計算を含む問題演習を重点的におこなう。 ・発展的な内容として意図や背景を理解して解釈、推論して解決する力を育むために、実験を行う際に生徒同士で発表や質疑応答を行う機会を設ける。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の思考・表現は都や全国の平均とほぼ同程度のポイントであるため、思考力や表現力を育むことができつつあると考えられる。 ・最も課題として挙げられるのは全国とのポイント差が最も大きかった技能や知識・理解の定着であると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験観察において、目的から実験方法を考えさせたり、学んだ知識や用語を用いながら、効果的な結果のまとめ方を考えさせる指導を行う。 ・実験や観察後の考察は、重要語句等を提示、確認をしながら指導し、実験・観察中の机間指導や個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補充的な指導として、重要語句の定着を図るために、問題集の一問一答問題に取り組みさせる。 ・発展的な指導については、実験・観察に関する技能をさらに養うために実験・観察等を実験ノート記入の仕方によって、自主的にまとめさせる。